

第333回山口西田読書会(2023年6月10日開催分)の Protokol

小嶋 久之

1. テキスト及び範囲

西田幾多郎全集(旧全集) 第四巻 「場所」

「五」の第1段落 272 頁 1 行目から同段落 274 頁 8 行目まで

2 キーワードないしキーセンテンス

「しかしかかる包摂関係の時間上に於ける完成として、判断作用というものが理解せられるのである。」(273 項、2~3 行)

3 考察及び問い

時間は、宇宙誕生のような過去から、未来に継続しているとも考えられますが、ここではどのような時間なのでしょう、また、完成とはどのようなこと・状態をいうのでしょうか。

下記のような時間を指し、完成のために判断作用があると解することは如何ですか。

①ある包摂関係が世に生じたときから関係が完成するまでの連続的な時間

②ある包摂関係を考える人がその考えが完成するまでの断続的な時間

完成とは、理想の包摂関係になることで、二つのものが合一することでしょうか。(220 字)